

第7回 建設施工における現場作業支援のDXに関するWG

1. 日時

令和5年8月8日（火） 10:00～12:00

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階インフラDXルーム

3. 出席者（五十音順、敬称略）

<委員>

小林泰三（立命館大）、永谷圭司（東京大学）、西尾真由子（筑波大学）、
油田信一（芝浦工大）

※オブザーバーはWEB形式にて参加

4. 議事

（1）規約の改定について

（2）第6回WG 令和4年度取組及び令和4年度調査結果について

（3）令和5年度活動案とロードマップについて

<主な意見>

●第6回WG 令和4年度取組及び令和4年度調査結果について

○視覚拡張技術に関し建設現場に特化した技術のニーズを提供し、シーズとマッチングする場があるといい。

○PAS以外にも作業員の身体負担を軽減する動力付き作業補助器具（簡易なクレーンやリフターのよう器具）の活用を検討してはどうか。

○視覚拡張技術のXRグラスによる丁張の省略は工期の短縮など生産性の向上が期待できる。

○建設の過酷な仕事に対し、深刻な人材不足の状況では従来のルールを変える必要がある。

●令和5年度活動案とロードマップについて

[ドローン技術について]

○広く調査し、活用に向けて対象を絞ってゆくと良い。

○建設分野でのドローンの活用というテーマを明確にするため「建設施工あるいはインフラ維持管理における小型無人航空機の有効利用に関する検討と実証」としてはどうか。

○活用対象として、建設現場、災害、維持管理にフォーカスして検討するのが良い。

○ドローンの活用において、技術開発上の制約以外の、制度等の制約などの調査結果を出してほしい。

[XR 技術について]

○調査対象として、デバイスだけでなくアプリケーションにも着目した方がよい。

[PAS について]

○重量物を持つことや位置合わせをする作業等に着目して検討を進める。

<今後のスケジュールについて>

○次回 WG では、調査結果に関する中間報告を行う。

以上